TUNING CAR 2013

MANSORY

新進気鋭のチューナー、そのトップに訊く

ジャーマンチューナーであるマンソリーの勢いが止まらない。ハイエンドモデルを対象に絞り、またカーボンを多用した大胆なアピアランスで、その登場のたびに市場を驚かせている。そのトップであるコーロッシュ・マンソリー氏にインタビューが可能となった。

文●伊達正行 text by DATE Masayuki
写真●塚本雅隆 photo by TSUKAMOTO Tadaki
制作協力●ライトニングモーターズ TEL. 048-853-2222

ロールス・ロイスやベントレー、アストンマーティンなどの英国車に対して警鐘を鳴らしたカスタマイズを行い、そして現在は英国車に限らずフェラーリ、ランボルギーニなども守備範囲とするチューナー、「マンソリー」。同社創業者であるコーロッシュ・マンソリー氏駆逐来日の報を受け、その理念や日本における今後の展開プランなどを聞くべく、マンソリー正規ディーラーであるボンドカーズ東京のショールームで同氏をつかまえた。

■

――まず初めに、「なぜ英国車のチューニングからスタートしたのか？」という点から教えていただけますか？

マンソリー氏（以下、M）「ビジネスとしてボリューム（量）やアマウント（額）を追うのなら、たとえば数多く出回っているメルセデスとかを狙うのがいいよね。でも、僕はあまり興味がないんだ。いやもちろんメルセデスは良いクルマだと思うけど、僕の興味の対象ではなかった、ということだね」

――それは、イランご出身ではあるものの、長らく英国にお住まいだったというのが関係していますか？

M「イエス！　クルマだけではなくすべての製品に共通する、英国ならではの『アンチ大量生産』というのかな、本当の職人が、少数の人のために少量を手間にかけて作る。そういった英国のクラフトマンシップにわたしは多大なる影響を受けた。だからこそ1989年の創業当初、まずはベントレーやアストンマーティンに関するビジネスから始めたんだ。わたしは英国のそれらバイブランドの『根本的な精神』を本当にリスペクトしている」

――現在の社屋はドイツの……

M「バイエルン州のフィヒテルゲビルゲというところにある。風光明媚ないい街だよ！　そこでは70名以上の熟練スタッフが働いてくれていて、空力パーツの設計や超軽量ホイールの開発、圧倒的なパフォーマンスをもたらすエンジンチューニングを行っている。もちろん、我が社自慢の多種多様な素材を使ったハンドメイドのインテリアパーツもね。ドイツのほか、スイスのチューリッヒには『マンソリー・スイス社』があって、そこではボルシェ用のチューニングやアクセサリープログラムを開発しているんだ」

――マンソリーのプロダクツというと、ゴージャスでありながら決して趣味ではない独特のインテリアプログラムをまずは連想します。インテリアのカスタマイズにこだわり、そして注力している理由は？

M「クルマというのはもちろんすばらしい機械製品であるわけなんだが、『それだけ』ではあまり意味がないと思うんだ。いや、意味がないというとちょっと言い過ぎかもしれないが、クルマを楽しむための『人生全体』というのかな、文化的な側面を含めた総体の中にあって初めて楽しめるものだと思うんだよ。いくら乗基で、いかに速いクルマを持っていたとしても、それを心から楽しめる人生がないことには意味がないじゃないか。そういった点でクルマのインテリア、それも自分が本当に充実した気分になれる最高のインテリアというのは、絶対に重要なものだとわたしは思っているよ」

――ハードウェアはもちろん大切だが、まずは文化ありき、ということですね。

M「まさに。たとえばこの雑誌、ちょっと見てくれないか？」

――「MANSORY」……御社の機関紙ですか？

M「いや機関誌ではなく、フツーに書店で12ユーロ（約1500円）で売っているものだよ（笑）。我が社で英語版とドイツ語版の2バージョンを制作し、EU内で販売しているんだ。で、雑誌のサブタイトルが『AUTOMOTIVE&LIFESTYLE』となっているだろう？　雑誌の中身もぜひ見ててみてよ」

――……クルマに関する記事が充実してるのはもちろんですが、それ以外の記事もすごいボリュームですね。純ファッション、家具、カルチャーと、まさにライフスタイル誌じゃないですか。

M「『エスクワイア』的というか。わたしのメッセージというのは『贅沢してるんだよ、それは』とにかくみんな、人生を楽しもうよ！」ということ。人生を楽しみ尽くすうえで、クルマはもちろん重要な要素の一つだが、それだけでは足りない。『ライフスタイル全体』で考えなければいけないんだよ。そして我々は、あなたが『もっともっと人生を楽しみたい！』と思った時に、必ずやお役に立てるサプライヤーであり、アドバイザーでありたいと思っている。今現在も日本のディーラーさんたちが頑張ってわたくしどものブランドを広めてくれているが、これからは今まで以上に日本でのプロモーションに力を入れていくつもりなので、ROSSO読者の皆さんはぜひ期待していてください。ごく近い将来、またROSSOでお会いしましょう！」

Kourosh Mansory
（コーロッシュ・マンソリー）氏
イラン出身。英国で長らく暮らした後、1989年にMANSORY DESIGN & HOLDING GmbHを創立。同社のテーマは「more than tradition, more than tuning」。

マンソリー社のオリジナルマガジン。「社長の演説」では全部ない、超本格的で上質なライフスタイル誌で、「生活全体を楽しむべし」というマンソリー氏の哲学を体現している。

マンソリーではランボルギーニ、ベントレー、メルセデス・ベンツ、アウディ、アストンマーティンなど、プレミアムモデルをベースにさまざまなモデルを展開中。またマンソリー・スイスではボルシェを中心に、BMW、レンジローバーなどを扱う。

マンソリーがプロデュースするフェラーリF12ベルリネッタをベースとした最高モデル、その名が『STALLONE #12』だ。599ベースのモデルは STALLONE と呼ばれていたので、その後継車とも言える。マンソリーらしくカーボンを多用したエクステリアはもちろん、+26ps/26Nm（3.67kgm）となったV12エンジンにもぜひ注目。

ボンドプラスの受付コーナー（写真上）およびガレージ内（写真下）。白を基調とした清潔な空間で熟練インストーラーが日々、オーディオやナビなどのインストールを行っている

bond plus

■埼玉 ボンドプラス

ポルシェ用 JBL トレードイン・スピーカーキット、ついに登場

ボンドカーズのカー AVN インストール部門である『ボンドプラス』からこのたび
ポルシェ 911（タイプ 991）／カイエン／パナメーラ用『JBL トレードイン・スピーカー』が発売された。
音にはこだわるが、純正のイメージは損ないたくない人必見のアイテム。お店と共にご紹介したい。

文●伊達正行 text by DATE Masayuki 写真●塚原孝顕 photos by TSUKAHARA Takaak

ポルシェやAMGなどのハイエンドモデルに特化した輸入車販売店『ボンドカーズ』のことは皆さん先刻ご承知だろう。埼玉県さいたま市に2拠点と東京都大田区に1拠点、そして大阪府大阪市に1拠点の計4拠点を構える老舗販売店である。

しかし『ボンド』は車両販売のほかにも、板金塗装ファクトリーなどさまざまな事業部門を擁しており、そのなかのひとつがカーAVNのインストレーション専門ファクトリーである『ボンドプラス』（ちなみに同社はファクトリーではなく『パフォーマンススタジオ』と呼ぶ。ボンドカーズはURAWAに隣接する大型ピットにて、4名の熟練インストーラーが日々インストール作業を行っている。

そんなボンドプラスがこのたび開発した、ポルシェ専用のオーディオ系アイテムをここで紹介したい。それは、その名もズバリ『ポルシェ・トレードイン・スピーカー』。ポルシェの991（現行911カレラ）と958（現行カイエン）、970（パナメーラ）に対応するトレードイン・スピーカーキットで、スピーカー自体は名門JBLか、またはJBLよりは少々手頃なプライスのFLUX（フラックス）の2種類から選択することができる。

走行中であっても『いい音』にこだわりたいポルシェ・ユーザーとしては、純正スピーカーから社外スピーカーへのアップグレードはある意味必須なわけだが、とはいえゴテゴテとしたボックスを増設して車内の美観を損なうのは避けたいところ。しかしこれまで991／958／970用のトレードイン・キットというのは存在しなかったため、純正スピーカーの音質で良しとするか、あるいは例のゴテゴテ系スピーカーボックスを増設するほかなかったわけだ。

しかし今回ボンドプラスから新登場となったこのキットは、991／958／970用としてパーフェクトな寸法と形状にかたどられたジュラルミン製バッフルと、JBL（限定生産のTW660GTIなど）ないしはFLUX（MC361など）というハイエンドスピーカーがセットになっているため、簡単に言えばポン付けで、そして純正インテリアの美観を損なうことなく、上質な音を堪能することができるのだ。

作業は左の写真群のとおりかなりシンプルで、ボンドプラスなどの専門インストーラーに依頼すればものの数時間で前後左右のスピーカーがJBLまたはFLUXに生まれ変わる。今回のキットが取り付け可能となるポルシェ各モデルの場合、純正でもBOSE製スピーカーが付いている場合が多いわけだが、BOSEとはいえやはりメーカーのライン装着品では何かと限界があるのは確か。迫力ある中～低音とヌケの良い高音を本当の意味で楽しむためには、より上質なスピーカーに替えることはカーオーディオ愛好家としてはマストとすら言えるだろう。

価格はJBLフロント3WayスピーカーシステムがJBL（ボンドプラスでの取り付け工賃含む。以下同）で、JBLリア2WayスピーカーシステムがJBL 21万8000円。前後セットにすると4万8000円割安な42万8000円に。若干お手頃な価格となるFLUXを選ぶと、フロントが16万7250円～22万7250円で、リアが11万2250円～14万0850円。今回紹介したポルシェ用トレードイン・スピーカーキットを含め、輸入車のカーオーディオに興味または不満がある人は、一度ボンドプラスを覗いてみれば、きっとステキな発見があることだろう。

写真上の左側がポルシェ現行カイエン用のフロントキットで、右がリア用。スピーカーは限定生産の JBL TW660GTI 6inch 2Way と JBL 専用ECHO。専用バッフルはジュラルミン素材。ちなみに、スピーカーが入っている写真下のジュラルミン製専用ケースもシブイ！

6本のビスでとまっている純正6インチスピーカーを外していく。ちなみに取材車両の純正スピーカーは BOSE 製だった。

今回の取材でトレードイン・キットを装着した車両は958型ケイエン。ボディはフロントアッパーバンパーを外していない状態で外していく。

サイズ、形状共に完全に純正と同一に設計されたジュラルミン／樹脂の専用バッフルも、JBL のスピーカーと組み合わせる。

純正インテリアのイメージを損なうことなく JBL ／ FLUX スピーカーの 上質なる音圧をポルシェにいざなう

フロント6インチスピーカーの装着が完了。ここにドアパネルを被せるので、車内の見た目的には純正状態とまったく変わらない。

取り外したドアパネル側に、ふたたび6本のビスで固定する。後付けするツイーターの交換はかなりやっかいだが、ここは非常に簡単。

ダッシュボード上にあるツイーターのみ、微調整が必要。ダッシュボード内部のパネルを取ってから、JBLツイーターを装着する。

最初に外したドアパネル側に、こちらも専用バッフルを組み合わせた JBL ミッドスピーカーを装着。これぞ楽園なポン付け技術。

INFORMATION

■ボンドプラス
所在地：埼玉県さいたま市桜区栄和 4-2-10
TEL：048-856-0123
営業時間：10:00～20:00
定休日：なし
HP：http://www.bondcars.co.jp/bond-plus/